

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	9 件のうち、生徒間暴力が 6 件、器物損壊が 3 件であった。いずれもすいずれもすみやかにに指導し、家庭との連携が取れている状況にある。
② いじめの状況等	いじめを認知した 25 件のうちすべてにおいて、いじめ対策委員会を経て、複数名による対応・確認を行った。調査直前に認知した件数については、解消の期間とはみなされないという規定に基づき、次年度(令和 6 年度)への継続的対応として引き継いで計上し、見守りを続けている状況である。
③小・中・義務教育学校における不登校の状況等	電話や家庭訪問を粘り強く続け、校内会議を月に 2 度以上開催している。登校が再開した生徒もいる。一方で小学校時からの深刻な不登校や、校区変更でリフレッシュを図るものの改善できないなど、学校から家庭へのアウトリーチが全くできない状況もあり、行政機関と連携しながら取り組んでいる。